

兵庫県淡路市（国内 10 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 11 月 26 日実施）

令和 2 年 11 月 26 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部に位置し、付近は田畑に囲まれている。
- ② 農場敷地の周囲に複数のため池があり、発生鶏舎から最も近いものまでの距離は約 30m で、現地調査時にはカモ類は認められなかった。また、約 250m の距離にあるため池ではハシビロガモ 69 羽、ホシハジロ 13 羽、オカヨシガモ 12 羽など、多数の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には、公道を介して成鶏舎エリア、大・中雛舎エリア、幼雛舎エリアの 3 区画がある。大・中雛エリアは成鶏舎エリアから約 230m、幼雛舎エリアはさらに約 80m の距離に位置する。成鶏舎エリアには GP センターが併設されていた。
- ④ 成鶏舎エリアには開放鶏舎 4 棟とセミウィンドレス鶏舎 2 棟の計 6 棟の鶏舎があり、発生鶏舎は、成鶏舎エリアの入口から奥に位置する開放鶏舎であった。発生時には成鶏舎エリアでは 1 棟を除き、採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、11 月 4 日以降以降 2～23 羽程度で推移しており、普段、死亡鶏が確認される場合は、鶏舎内に散在していたとのこと。
- ② 11 月 25 日に確認された 13 羽の死亡鶏の内、7 羽が隣接するケージにまとまって確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 45 名の従業員が働いており、鶏舎内で作業をする 10 名のうち 7 名が成鶏舎エリアを担当しているとのこと。管理人によると、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行っているとのこと。
- ② 管理人によると、発生鶏舎の管理には主に 4 名の従業員が携わっているが、従業員が担当する鶏舎は厳密には決まっておらず、すべての従業員がいずれの鶏舎においても作業する可能性があるとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していた。鶏舎毎の長靴の交換は実施していないが、成鶏舎の入口には踏み込み消毒槽を設置していた。農場に入る場合は、手指消毒を実施していたが、鶏舎毎の手指消毒は実施しておらず、手袋の交換も行っていなかったとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、井戸水がいったん農場内の貯水タンクに貯蔵され、消毒後にパイプによって各鶏舎に供給されている。
- ④ 鶏舎から排出された鶏糞保管、処理施設には防鳥ネットは設置されていなかった。
- ⑤ 健康観察時に回収した死亡鶏は、発酵式の死亡鶏処理装置にて処理したのち、鶏糞と一緒に堆肥化処理を行っている。
- ⑥ 管理人によると、発生鶏舎を含む開放鶏舎は、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。

- ⑦ 管理人によると、農場敷地内には消石灰を散布していないが、鶏舎内通路には石灰乳を塗布していたとのこと。
- ⑧ 成鶏舎エリアの入り口には動力噴霧器等の車両消毒設備はなく、管理人によると、車両が当該エリアに出入りする際には、GP センター搬出口に設置している動力噴霧器により消毒を実施した後、公道を通過して当該エリアに入るとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の側面は金網（マス目は約 4×5cm）とその外側に、ロールカーテンが設置されている。管理人によると、発生時には、ロールカーテンは、日中は半分程度開放しており、夜間もすべては閉鎖せず、一部開放していたとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場敷地内では、現地調査時に多数のカラスが確認された。
- ② 発生鶏舎の側面の金網とその外側のロールカーテンは、いずれも一部に破損がみられた。また、鶏舎の壁面には小型の野生動物が侵入可能な 3cm 程度の隙間が確認された箇所があった。
- ③ 管理人によると、鶏舎内でネズミやスズメを見かけることがあるとのことであり、現地調査時にも、発生鶏舎内でスズメが確認された。
- ④ 管理人によると、鶏舎内では定期的（1回/月程度）にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。
- ⑤ 管理人によると、小型の野生肉食動物によるものと思われる、鶏の食べられた死体が成鶏舎のケージ内で見つかることもあるとのこと。